

ありがとう拓心寮 2年間の寮生活を振り返って

ありがとう拓心寮 〜新鮮で楽しかった二年間

農産加工経営学科2年 笠原麻梨香

拓心寮での生活は新鮮なことばかりでした。2年間という長い期間、他の人達と日々の生活を共にすることが、最初は不安で仕方がありませんでした。どんな人と一緒に部屋になるのか、仲良くしていくことができるか、どのようにして過ごしたらいいのか。ですが、この拓心寮に実際に入ってみると、そんな不安もすぐに吹き飛んでしまいました。仲間と一緒に過ごすことがこんなにも楽しいことだとは思ってもみなかった。共同生活という今までにない体験は、1年生だった私にとって新鮮なものでした。ひとつの部屋に集まってたくさんの人と過ごしたりする何の変哲もないようなことが何よりも楽しかったのです。



二年生となり、総寮長となつてから
もなかなか大変なことが多かったの

すが、その度に周りの友人達が相談に乗ってくれたり、問題の解決に努めたりしました。



卒業論文についても、同部屋の友人と相談することの連続でした。1人で解決できないようなことでも、全て何とかなりました。

そういった共同生活を通してはぐくみあいができる拓心寮は、第二の実家のようなものだ、私は感じています。

拙いながらも1年務めた総寮長としての経験、気兼ねのない友達との生活2年という長いようで短かった寮生活は、今までになかった経験がたくさんできた貴重な場となりました。社会人としての世間の荒波にもまれていくこれからの生活の中で、心の支えとなる良い思い出ばかりです。

来年度からは新しい寮へと変わりますが、先輩たちにも「ここで過ごせてよかった」と思えるような寮生活を送ってほしいと思います。

平成26年度研修生を紹介します

《新規就農支援研修》

井上 悟志さん

以前からモノづくりに興味を持って来たことと、両親の農業に取り組む姿勢に感化されたことから、農業を職にしようと決め、農業大学の新規就農支援研修を受講しました。

「水稻及び果樹の基礎知識の習得」を研修課題として、受入農家のもとで1年間、作業や技術、大規模経営のノウハウを学んできました。また、オプション研修も積極的に受講し、農業機械の扱い等も学びました。

今回の研修を通して、農作業の大まかな流れを理解することができ、改めて農業はやりがいのある仕事だと感じました。以前は皆無だった農業の知識がかなり身についたように感じます。

今後は、研修で学んだことを生かしながら、水稻の有機栽培の規模拡大やぶどうの加工等に取り組んでいきたいと考えています。農業経営者となるうえで様々なことに悩み考えたいと思

います。失敗を恐れず積極的に実践していきたいと思



《農業ビジネス支援研修》

川端 由美さん

河北町で糶屋を営んでおり、山形県産原料を使用し、糶菌が生きているこだわりの味噌や糶を製造販売しています。しかし、発酵を止めていないことから流通上の管理が難しいなど不利な面があり、商品の強みを生かすにはどうすればよいかを学ぼうと、農業ビジネス支援研修を受講しました。

研修では、マーケティングやブランド化についての講義や加工施設等の視察、研修生間での意見交換を通して、大手メーカーの商品との差別化やターゲットとする顧客層の明確化等、販売戦略が見えてきて、自分の商品に自信をもつことができました。

今後は、蔵を改装した施設で、糶屋を訪れた方への飲食提供や味噌づくり体験講座等の開催を行い、顧客の増加を図るとともに

に地域の食材の活用 に貢献 したい きてい たい 考え ています。

